

●水環境・河川・流域（7） （3-A-09-1～3-A-10-2）

本セッションでは河川水中の窒素濃度の変動に関する報告が1編、水道水中の窒素濃度の変動に関する報告が1編、流域における窒素の流出に関する報告が3編であった。すべての報告が、長期間にわたる詳細な実測に基づいた報告であったのが本セッションの特徴である。

3-A-09-1は、利根川大堰で毎日採水した窒素濃度をもとに、群馬県内から発生する汚濁負荷量と季節変動、流出特性を明らかにしており、首都圏、東京湾への影響を指摘している点は大いに評価できるが、試料の保存についての検討を望みたい。

3-A-09-2は、銚子市の水道原水と水道水中の硝酸性窒素の変動と流出源との関係を検討し、降雨の影響を明らかにした点は評価できる。また、全国的に水道水中の窒素濃度を測定し、流出源との関係を検討しているが、測定地点の選定理由があいまいであり、今後の発展を期待したい。

3-A-09-3は、森林から流出する窒素について、流域の植生等の条件の違いによる変動について検討している。長期的なモニタリングでデータを蓄積していることは評価できるが、負荷量の違いの原因の特定に期待したい。

3-A-09-4は、涸沼流入河川流域における有機物汚濁負荷について、流入河川の土地利用などの流域特性と降雨との関係について、明らかにしていることは評価できる。今後、調査を継続し、より詳細な検討を期待したい。

3-A-10-1は、兵庫県内の渓流水における硝酸性窒素濃度の流出源について、大気汚染や大陸からの影響など降雨における降下量の影響を検討している。多地点における長期的な観測に基づいた考察は、大いに評価できる。溪流の地質と規制による違いや、流域内の近接地点における濃度差の原因、降雨に伴う流出機構の解明など、今後の研究の発展に期待したい。

（環境監視研究所 中地 重晴）